

平成30年度

京都市保護司会連絡協議会特別シンポジウム

薬物依存に陥った人の多くについて、仕事や人間関係などにおいて社会の中でうまくいかず、しかも真剣に相談のり支えてくれる身近な人がいないという状況が見られます。そして、いったん違法薬物に手を染め捕まると、これまでの生きづらさを抱えたまま、犯罪者として扱われるようになるため、ともすれば周囲に対して嘘をつく、隠れる、孤立するといったことになり、そして不安から再び薬物を使用するという悪循環に陥りがちで、依存からの脱却と立ち直りが難しくなっています。～シンポジウム開催主旨より抜粋～
そこで今回、薬物の高い再犯率を低くする一つの試みとして、薬物依存者の心と体の健康を願うと同時に地域社会に向けてメッセージを発信するため、シンポジウムを開催することとなりました。

パネリストプロフィール



川畑俊貴 (かわばたとしたか)
京都府立洛南病院 副院長
大学卒業後、精神科医となる。平成2年京都洛南病院に赴任以来約30年にわたって治療にあたる。最前線の現場で患者とともに依存症と向き合い、社会復帰を助けている。



市川岳仁 (いちかわたけひと)
特定非営利法人三重ダルク代表
1999年三重ダルク開設。2010年～2013年三重県地域生活定着支援センター相談支援員 2014年一般社団法人ソーパーリビング開設(代表理事) 2015年法務省より保護司の委嘱を受ける。龍谷大学大学院法学研究科修士課程修了、精神保健福祉士

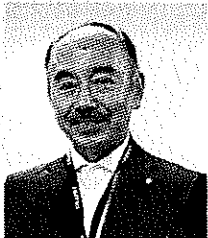
コーディネーター
京都市保護司会連絡協議会
会長 澤井早和乃

薬物

依存症は

病気です。

薬物依存症の回復は人間関係の回復から



上野修 (うえのおさむ)
左京区保護司会理事
2006年～法務省より保護司の委嘱を受ける
2015年～左京区薬物乱用防止指導員協議会会長 2018年9月国連アジア極東犯罪防止研修所で開催された保護司国際研修に参加し「薬物依存症は病気です」を発表。「薬物政策とハームリダクション」を聴講

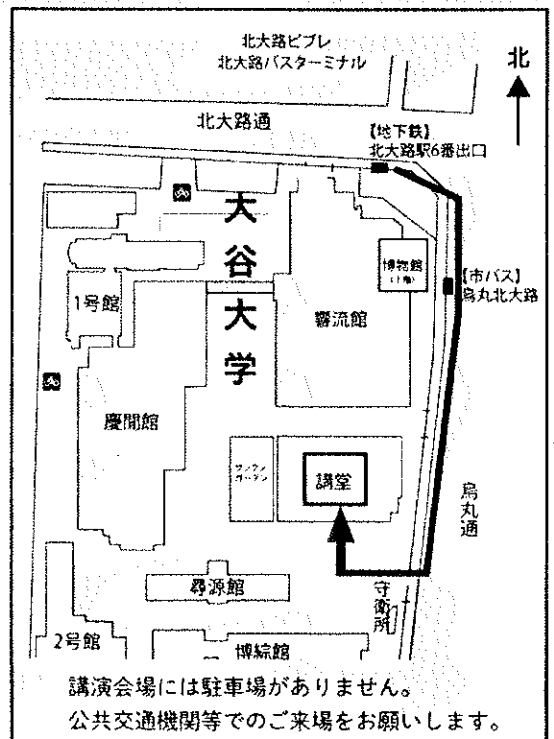
平成31年3月13日(水)

午後1時30分開演

(受付開始 午後1時)

会場：大谷大学講堂 (地下鉄烏丸線北大路駅下車すぐ)

入場無料



講演会場には駐車場がありません。
公共交通機関等でのご来場をお願いします。

- 主催 京都市保護司会連絡協議会
- 共催 京都府更生保護女性連盟 京都府薬物乱用防止指導員協議会
- 後援 京都市(予定) 京都市教育委員会(予定) 京都府教育委員会(予定) 京都市少年補導委員会 京都少年鑑別所 京都保護観察所
- 協力 京都府健康福祉部薬務課 京都市保健福祉局医療衛生推進室 医療衛生課 左京区保護司会 京都 BBS 連盟

問い合わせ：シンポジウム実行委員会事務局
〒602-0032 京都市上京区烏丸通今出川上る西入岡松町 255
FAX:075-417-2046

シンポジウム開催には、一部「公益財団法人京遊連社会福祉基金」の助成金が使われています。